

第92回スタディグループ分科会結果報告

運営委員長 田島 洋

(文責：田島)

1. 開催日時 2022年1月27日(木)14時00分～17時00分
2. 開催場所 Zoomのみ
3. テーマ 「初めての監査役」～私はこれから始めた～(監査基礎講座と共催)
4. 発表者

リーダー	(株)リアルゲイト	常勤監査役	木内 有子氏
コーディネータ	王子エンジニアリング(株)	常勤監査役	田島 洋氏
メンバー	日本ユニシス(株)	常勤監査役	寺西 裕二氏
	(株)ユポ・コーポレーション	常勤監査役	羽尾 務氏
	王子コンテナ(株)	常勤監査役	水田 雅治氏
5. 出席者 zoomでの参加者 48名
6. 配布資料 事前配布資料
 - ①「初めての監査役」スケジュール
 - ②「初めての監査役」Agenda
 - ③ 各社の概要
7. 議事次第、意見交換
(前半 14:00～14:50):
 - 1) 監査基礎講座岩本運営委員長から、SG分科との共催の主旨説明があり、リーダーの木内氏から、4名の方から体験談を披露していただく旨、説明がありました。
 - 2) まず、木内氏から、資料①-③の説明がありました。
 - 3) 最初に、寺西氏から、報告がありました。
 - 4) 次に、羽尾氏から、報告がありました。後半(15:05～15:50)
 - 5) 水田氏から、報告がありました。
 - 6) 続いて、木内氏から、報告がありました。
8. 質疑応答
(16:00～16:50)
 - ① 企業不祥事はどのようにすればおこらないか?
 - ・被監査部門自身で自浄作用のサイクルが回るように、内部監査部門と連携し、監査を受け身と捉えさせない意識で取り組んでいる。
 - ・確信犯もさることながら、知らずに法を犯してしまうことも防ぐようにしたい。(法の周知や事例研究で勉強させている)
 - ・コミュニケーションを密にとる

- ・ 経営者・すべての社員と対話を重ねる中から兆候に気づくことがある。
 - ・ 内部監査室とは常にリスクを共有する。
 - ・ 対話（「言ったモン負け文化が不正につながる」：上司に訴えることが出来る会社＝風通しの良い会社）
- ② 監査役が会議へ出席する際の判断基準は(どの会議に出席すべきか)？
会社の意思決定および決定(の過程)が形成される会議には出来るだけ出席する。
- ③ 会計限定の監査はどのようなことを行えばよいか？
期中：月次資料（試算表、取締役会議事録等）の確認とヒアリング
期末：実査（現金・有価証券等）
残高確認（預金・借入金・売掛金等）
帳簿と計算書類の突合
計算書類の期間増減比較等
その他必要な手続き。会計監査のチェックリストなどを参考にすると良い。
- ④ 株主総会のQ&Aの対応はどのようにされているか？
Q&Aをすべて入手し確認している。監査役に関するQ&Aの一部は監査役が作成している。
- ⑤ 親会社が2つある場合、親会社からの内部統制は？
100%子会社に比べて(双方)親会社からの縛りは緩いと感じるが、情報は双方から入るので、自社独自の内部統制に生かしている。
- ⑥ コロナ禍で、取締役・社員とのヒアリングは難しいのでは？
社長に話をつけて、極力実施している。
- ⑦ 三様監査の実態を教えて欲しい。
・ 監査役・監査法人・内部監査部の3者連絡会があり、四半期毎に開催している。
・ 三様監査の重要性は良く認識しているので、監査重点項目の共有などの意見交換会をこれから立ち上げる予定である。
- ⑧ 業務監査におけるヒアリングについて(概要と個別の棲み分けは?)
・ 監査役就任1年目は概要のヒアリング、2年目から個別項目に突っ込んだヒアリングを行った。
・ 監査役の監査重点項目に紐づけて具体化した質問を記載した調査票を作成・配付し事前に回答してもらったものをもとに業務ヒアリングを実施。

9. SG分科会のPR

(16:50~17:00)

SG分科会についての紹介および来期のメンバー募集がありました。

分科会活動を実際に経験した今回の発表者から、

- ・ 会社の枠を超えたお付き合いができた。
 - ・ 初めは負担を感じたが、終わってみれば貴重な経験になった。
 - ・ 自己の監査業務のとりまとめのいい機会となった。
 - ・ 分科会内での交流により、他社の取り組みを知ることができた。
- 等の感想が寄せられました。

以上